

Vintage Custom Harley Collection

OLD MOTOR

ADDICT

ハーレーダビッドソンが誕生して約110年。

時を経ることに進化し、次々に新しい構造が生み出されていく中で、いつの時代も変わらない古いハーレーを愛して止まないファンがいるのもまた事実。

ここでは、旧車のカスタムシーンを牽引する
殊玉のカスタムヴィンテージハーレーを紹介する。

Custom Harley

1942 FL

ハンドメイドの
ボディワークに秘めた
純正へのリスペクト。

text/Y.Kinpara 金原悠太 photo/T.Zenita 森田豊裕

【取材協力】

シュアショット TEL043-312-0900 www.sureshot.jp





スプリングはワンオフ製作。デザインはあえて純正の74スプリングの雲母瓦に合わせてナローに設計し、ブレーキはハブに収まるサイズのミッドラムを採用。

ワンオフのフェイエルタンクは前後独立で製作。かなりコンパクトに作られているが、純正のテイストを残すためフラフックは30年代の純正ロゴを流し込んだ。



左出しのマフラーは純正フレームの幅に収まるように設計されているため、ナローなフォルムを生み出すポイントとなっている。フレーム幅に沿って一直線に並ぶラインが美しい。

心臓部はストックに準じたレストアが施されるが、点火はデジタルのダイナ2000をチョイス。旧い乗り味を残しながらも快適な始動性は現代のバイクだ。



シートはベース、スポンジまではシュアショットで製作し、スタジオオウキによる手染め塗装でフィニッシュ。ムラ感に美しい経年変化が期待できる。



スピードメーターはこの車両の中では数少ないウィンターパーツを使用。'60sD型スミスのクロメトリックスをタンクサイドにマウントしてコンパクトに収めた。

Builder

Build by



シュアショット代表
相川拓也さん
外装のカスタムからエンジンチューンまで、深い知識と技術を持つカスタムビルダー。ショットはナクルからツインカムまでを主に扱う。

SURE SHOT



純正エンジン&フレームを使用し、軽快なスタイルに仕上げられたボバー。外装をコンパクトに製作し、マフラーを純正フレームの幅に収まるラインで左出しとすることでナクルヘッドの造形美を際立たせている。

「40年代に製作されたカスタムバイクと一つまでこだわらないようにボクも当時のパーツを多用するのではなく、あくまでも気軽に乗れるナクルをコンセプトに作りました。」と、ビルダーの相川さんが語る通り、純正のエンジンやフレーム以外のパーツは、外観上当時のパーツとして成り立たなければならぬというルールのもとにほぼワンオフ製作されている。エンジンは腰下からオーバーホールを施し、ストックのスペースに沿うレストアとすることで当時の乗り味を追求するが、デスピカパーの中にデジタル式の点火システムを内蔵したり、ピストンにWPC加工を施すなどクラシカルな外観からはわからない現代的なアップグレードが加えられているのもビルダーのこだわりだ。何よりそれだけ緻密にハンドメイドで作られた車体に、あくまでも純正のテイストを残したスタンスにこそ、ハーレーへの敬意とプロビルダーとしてのプライドを感じずにはいられないだろう。

ハーレーの黎明期を彷彿とさせるグレイ&レッドのシックなペイントを纏い、極めてナローなフォルムにまとめられたナクルヘッドボバー。前後独立となったフェイエルタンクこそユニークな造形となっているが、トータルで見た時に純正のグラフィックが違和感なくハマるデザインに仕上げられている。製作したのは千葉県の実業家のシュアショット、そのさりげなさこそがビルダーの狙いを象徴していると言えるだろう。